

## 平成25年度 第2回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日時】 平成26年 3月18日(火) 午後1時30分～3時30分

【場所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 (委員) 小幡 銀伸 ((公財)豊田市体育協会 会長) 《会長》  
岩月 富士雄 ((一社)豊田市身障協会 理事)  
大橋 則保 (豊田市小中学校長会 庶務)  
小栗 真佐人 (豊田市区長会 理事)  
鈴木 秀次 (豊田市健康づくり協議会 会長)  
平林 栄子 (スポーツ指導員 代表)  
藤原 睦行 (トヨタ自動車(株) 人事部)  
手嶋 道雄 (豊田市スポーツ少年団 本部長)  
湯浅 景元 (中京大学スポーツ科学部 教授)

【欠席者】 (委員) 加藤 恵美子 (豊田市スポーツ推進委員協議会 会長)《副会長》  
北村 幸子 (豊田市女性スポーツ団体協議会 会長)

【事務局】 笠井 保弘 (教育長) 倉橋 剛 (教育行政部長)  
塚本 伸宏 (教育行政部副部長) 伊藤 勝介 (スポーツ課長)  
杉山 寿美雄 (スポーツ課副課長) 梅村 靖之 (スポーツ課担当長)  
畔柳 隆二 (スポーツ課担当長) 松下 誠 (スポーツ課主査)

【傍聴人】 0人

- 【次第】
- 1 会長あいさつ
  - 2 教育委員会あいさつ (教育行政部長)
  - 3 議題
    - (1) 前回審議内容をふまえた取組について
    - (2) 平成25年度スポーツプラン掲載事業の点検・評価について
    - (3) 重点取組項目「元気っ子プログラムの展開による子どもの体力向上」について
  - 4 その他

### 【会議録 (議題部分のみ)】

#### ■議題(1)「前回審議内容をふまえた取組について」

事務局：(資料に基づき説明。資料A)

会長：これは、前回の会議で、子どもの体力が落ちている中こういった事業をやっているということで、皆さんに意見を出してもらい、そのことについて説明してもらった。これで終わりではなく、継続してやっていくという話である。オリンピックも、オリンピックをうまく使った中で、市民の健康やスポーツに対する興味を伸ばしていくということである。

委員：今年度、トップアスリートを学校に派遣してもらって、子ども達も喜んでいたという話は聞いているが、逆に、中学生が中京大学に出向き、大学生と一緒に練習できるようなシステムを作ってもらえると、指導者にとっても指導の方法などが学べ、教員を

目指す学生にとっても子どもの扱いなど勉強になる。

事務局：現実には、中学生ではないが、陸上で中京大に行って、学生と一緒に練習する機会はある。意見を踏まえて中京大と連携を検討していきたい。

委員：可能性はある。しかし、外部から人を招くとなると、時間や人数などそれなりの希望がでるだろう。またこのようなことをする場合、子どもたちの怪我や往復時の交通事故などについて常に問題になる。

大学側から言うと、試合や合宿などがあり土日は難しい。競技によってはあるが。できれば連携が取れるよう大学側にも声をかけていきたい。

会長：保険でカバーできるようなことはないか？

事務局：保険については中京大生の派遣でも常に出る問題。来年度は研究していく。

会長：ぜひ保険会社と折衝しながら、研究してほしい。

委員：一昨年、熱中症の保険について非常に苦労した。ぜひ、熱中症についても入れてほしい。また、私個人の意見だが、ぜひ連携をしていけるように働きかけていきたい。

会長：中京大には、いろいろなことをやっていたいでいる。このような大学はなかなか他にないので、そういう大学が豊田市にあるのはありがたいこと。

委員：何かきっかけがあれば、動いていく。連携できることがあればやっていける。

会長：中京大学、体育協会、市役所で会議を持っている。こちらを有効活用してほしい。

委員：中京大学がやりやすい競技から、少しずつ始めていけばよいのではないか。

## ■議題（２）「平成２５年度スポーツプラン掲載事業の点検・評価について」

事務局：（資料に基づき説明。資料１－①、②、③）

委員：お金がないと事業もできない。平成２５年度のスポーツプラン掲載事業に対する予算と決算は出せるのか。平成２６年度についても予算が知りたい。お金の使い道については、市民も思う。

会長：次回の審議会でも、資料を出せるようにしてほしい。

会長：私から報告したい。まず、３月２８日に体協の表彰を行うが対象者が１６０人と昨年度よりも３０人も多い。競技をがんばってもらっている。もう一つ、スタジアムで、夜もランニングできるよう照明を試行的に設置している。早朝から、夜までスタジアムで運動できるように考えている。

委員：スポーツ少年団、目標について、体育協会だけの目標ではなく、市行政が絡んだ目標を立ててもらいたい。指導者の資質向上が叫ばれているが、愛知県スポーツ少年団が指導者に対する講習会を開催しても、参加者が少ない。少しは強制力を持ったものにしないと、いい指導者を育てていくことはできない。子ども達を育てるには、専門科目を勉強してはいけない。子どもたちにとって社会一般で通用することを、スポーツに絡めて指導していくことを義務付けることが必要。日本スポーツ少年団は、来年度から２名以上の指導者の配置を義務付けているが、豊田市では、講習を受講して指導者資格を取ろうという動きが少ない。１５、６の団体が、市のスポーツ少年団に加盟して助成を受けているが、今のままの制度はよくない。講習を受けた、有資格指導者のいる団体への援助という形にしてほしい。そうすることで、そういった指導者に指導された子どもはスポーツが楽しくできる。体協だけでなく、教育委員会での指導も大切なこと。それが、地域スポーツクラブとの連携にもつながっていく。

教育長：非常にいい提案をしてもらった。もう一度、市も入って、育成資金のあり方を検討していきたい。

委員：豊田マラソンがスタジアム周辺で開催されるようになって、多くの人に関心を持っている。まちなかに戻ってきてくれたことは非常にいいこと。

また、交通事故の心配のないスタジアム中心に体を動かすことの拠点になればいいと。

委員：私は猿投の住人。地域振興の観点では、残してほしかった。

委員：目標と実施事項の因果関係がわかりにくい。いろいろなことをやってもらっているが、目標を達成するためにやっていることが、本当に正しいことなのか、ということがわかりにくい。もう少し、わかりやすい形にしてもらえれば。

やった、やっていないでの評価ではなく、やったことが本当に目標につながっているかということが重要で、数値も分かりやすく示してほしい。

事務局：子どもにおいては、スポーツをする子としない子の二極化が見られ、外遊びをしない子が増加している。小学3年生まででCOTに慣れ親しんで、その後、部活動等へ移行できるように、組み立てている。成人においては勤労子育て世代のスポーツ実施率が低いため、親子スポーツ、事業所でのスポーツに取り組んでいる。

会長：事務局には市民に分かりやすい説明にしてほしい。ところで、私は豊田の健康寿命を算出すべきであると考え。体育館の月曜開館も体育協会は受ける意思がある。

委員：スポーツ推進委員との連携とはどのようなものか。

事務局：スポーツ推進委員は各地区で配置され、地区でスポーツ教室やニュースポーツの振興をしてもらっている。また、スポーツ推進協議会では、より活発な運動になるよう部会に分かれて、委員同士で議論をもらっている。連携というのは、コミュニティやスポーツクラブ、各種団体と連携を図りながら地域の中で活動してもらっていくものである。

### ■議題（3）「元気っ子プログラムの展開による子どもの体力向上」について

事務局：（資料に基づき説明。資料B）

オリジナルダンスについてのひまわりネットワークでの放映を紹介。

（質問、意見なし）

### その他

委員：オリンピックとパラリンピックに絡めた取組として。現在、中京大学の中だけで4年に一度オリンピック展というものを行っている。そういったものを市内でやれたらと思う。古代ギリシャの古いスポーツについても紹介してみたら興味を持ってもらえるかもしれない。

委員：5月に市の陸上競技場で、障がい者の陸上の県大会が開催される。ぜひ関心を持ってほしい。

会長：次回、5月か6月で報告をお願いしたい。